

科目名	キリスト教Ⅱ	必修選択	必修
		授業形態	講義
担当教員	アンネリーゼ・デーケン 御子神 隆也	単位数	2
		開講時期	2年次前期
		開講学科	全学
目標	キリスト教思想に基づく人間の生と死の理解を学ぶことを通して、人生の意義や人間の尊厳について考え、人間らしく豊かに生きるための指針を探る。		
内容	毎回定められたテーマ（下記「計画」参照）について講義を行い、いくつかのテーマについて小論文を作成、提出させる。		
履修上の注意	特になし。		
<b>授 業 計 画</b>			
1.	「復活」とその意味／初代教会の成立		
2.	神の国の福音		
3.	キリスト教の人間観—「神のかたどり」である人間		
4.	命の尊さを考える(1)		
5.	命の尊さを考える(2)		
6.	祈りと宗教儀礼（人はなぜ祈り、祭りを行うのか）		
7.	キリスト教の祈りと礼拝		
8.	死から見る生の哲学（死生学）(1)—死とどう向き合うか		
9.	死から見る生の哲学（死生学）(2)—死別の悲しみと生きる希望		
10.	キリスト教における性と結婚—人間にとって性とは何か		
11.	キリスト教の歴史から学ぶ(1)—十字軍の教訓と諸宗教との対話		
12.	キリスト教の歴史から学ぶ(2)—宗教改革と教会の使命		
13.	キリスト教と文化—インカルチュレーション（福音の文化的受肉）の問題		
14.	愛、正義、そして平和への道		
15.	総括		
テキスト	『聖書—新共同訳・旧約聖書続編付き』（日本聖書協会） アルフォンス・デーケン著『キリスト教と私』（聖母の騎士社） 石川康輔編『きょうの祈り』（ドン・ボスコ社）		
指定図書	なし。		
評価基準	①試験・小論文（70%） ②授業出席（30%）		

科目名	哲学A	必修選択	選択
		授業形態	講義
担当教員	御子神 隆也	単位数	2
		開講時期	1年次前期
		開講学科	全学
目標	世界および人間に関する真理を探究するための哲学的視点・知識を学び、人間らしく幸いに生きるために自ら考える力を身につける。		
内容	哲学概論。哲学史における主要なテーマ（下記「授業計画」参照）を取り上げ、それについて講義、質疑応答を行う。		
履修上の注意	レポート作成に役立てるために、講義内容に関連する5冊程度の本を読むことが求められる。		
<b>授 業 計 画</b>			
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知ることの意味—人間にとって知識とは何か</li> <li>2. 自然哲学(1)—古代ギリシャ哲学、ユダヤ・キリスト教思想から</li> <li>3. 自然哲学(2)—自然および生命の価値</li> <li>4. 存在論—プラトン、アリストテレスの思想から</li> <li>5. 認識論(1)—合理主義</li> <li>6. 認識論(2)—経験主義</li> <li>7. 認識論(3)—カント、ヘーゲルの思想から</li> <li>8. 宗教と科学との関係性</li> <li>9. 言語哲学(1)</li> <li>10. 言語哲学(2)</li> <li>11. 哲学的人間論(1)</li> <li>12. 哲学的人間論(2)</li> <li>13. 哲学的人間論(3)</li> <li>14. 価値論—倫理価値と生きる意味について</li> <li>15. 総括、レポート作成指導</li> </ol>		
テキスト	なし（テーマごとに講義レジュメ、教材プリントを配布する）。		
指定図書	なし。		
評価基準	①受講態度(30%) ②レポート(70%)		